

「衛星放送の将来像に関する研究会」  
(第1回会合) 議事要旨

- 1 日時  
平成17年10月14日(金) 15:00～16:15
- 2 場所  
総務省 第2会議室(地下1階)
- 3 出席者
  - (1) 構成員(五十音順、敬称略)  
浅野睦八、石橋庸敏、伊東晋、植村伴次郎、音好宏、高畑文雄、竹中一夫、鳥居昭夫、長田三紀、舟田正之、森忠久、山下東子
  - (2) 総務省  
清水政策統括官、河野官房審議官、福岡総務課長、南放送政策課長、  
大久保放送技術課長、安藤地上放送課長、岡崎地域放送課長、今林衛星放送課長、  
山本衛星放送課調査官、箆島衛星放送課課長補佐
- 4 議事内容
  - (1)開会挨拶
  - (2)構成員等の紹介
  - (3)開催要綱の決定
  - (4)座長の選出(座長は、舟田委員が選出された。)
  - (5)座長代理の氏名(座長代理は、高畑委員が指名された。)
  - (6)研究会の公開について
  - (7)衛星放送等の概況についての説明
  - (8)研究会の進め方について
  - (9)閉会
- 5 主な議論  
事務局から席上配布資料について説明がなされた後、以下のような全体議論が行われた。
  - (1) B S デジタル放送受信機の普及について
    - ・ 今年8月末で、1,000万台を超え、9月末では、1,052.5万台。本来、7・8月は消費が冷え込む時期だが、3波共用デジタル放送受信機が好調であり、今年度末には1,500万台、そして、来年12月には2,000万台を達成する勢いとなっている。
    - ・ 日本のB S デジタル放送市場の成長は世界的にも例がない。しかしながら、2011年の地上放送の全面デジタル化という観点からは、まだまだ不十分であり、今後は、

地上放送とBS放送が一体となってアナログからデジタルへの移行を推進していくことが必要。

(2) BS放送用周波数の利用について

- ・ 新4チャンネル等の利用にあたっては技術的な問題があるが、これについては、次回以降、地上デジタル放送の進展にともなう受信障害対策放送の動向、デジタル放送受信機におけるTS（トランスポートストリーム）に関する問題等について関係事業者等からヒアリングを行う予定。

（了）